

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科											
オリジナル作品制作2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	西川進・川村ケン			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
この授業は、「作詞・作曲」とリンクしている。音楽を作るにあたり、デジタル的側面とアナログ的側面の要素におけるデジタル領域を本授業では講義、実習する。毎回、TIPとして、DTMの使用法の基礎から応用まで学び、その後、講師指導のもと、各個人、または学生同士で班を作った共同制作を行いながら、オリジナル楽曲の制作を進める											
到達目標											
現代の作品制作には、DTMの操作技術、活用技術が必要不可欠である。本授業の目標としては、各個人、また、学生同士が協力しながら、デジタル的な側面から、楽曲に適切なアレンジメントを施し、よりハイクオリティなオリジナル作品の制作能力を高めることを目標とする。											
授業方法											
毎回、DTMの使用法における有効なTIPを学び、その後、それらを実用しながら講師の指導のもと、オリジナルの楽曲を制作、アレンジメントしていく。											
成績評価方法											
成果発表50%（授業時間内に行われる課題の発表、内容について評価する）。平常点50%（積極的な授業参加度、授業態度によって評価する）。											
履修上の注意											
必ず、「ヘッドフォン」「ステレオミニ台ステレオ標準の変換ジャック」及び、TIPを書きとめる「ノートと筆記具」を持参の事。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。											
教科書教材											
適宜、配布プリント等を使用。											
回数	授業計画										
第1回	プロジェクトウインドウ、キーエディター内にある「情報ライン」について学び、より精度の高いエディットに積極的に活用できるようにする。										
第2回	パンチイン、パンチアウトについて学ぶ。また、複数のトラックの同時録音についても学ぶ。										
第3回	複数のキーエディターを同時に開いてのエディット方法を学ぶ。その際、パート毎に色分けをすることで、エディット操作の高速化を目指す。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科	
オリジナル作品制作2	
第4回	オーディオトラックの「VariAudio」機能について学び、操作方法を理解する。これにより、主にボーカルデータのピッチ修正、補正が正しく行えるようになることを目指す。
第5回	エフェクター「Reverb（リバーブ）」および「Delay（ディレイ）」について学び、理解する。また、「FXトラック」を利用したエフェクトのセンドリターンの概念を理解し、使用できるようにする。
第6回	エフェクター「EQ（イコライザー）」について学び、理解する。インサートエフェクトとセンドエフェクトの違いを理解し、使い分けができるようにする。
第7回	エフェクター「COMP（コンプレッサー）」について学び、理解する。コンプレッサーは頻出だが、理解、使用方法が大変難しい為、しっかり学ぶ。
第8回	その他、頻出する基礎的なエフェクターについて学ぶ。例：Chorus（コーラス）、Phaser（フェイザー）、Flanger（フランジャー）、Autopan（オートパン）、Overdrive（オーバードライブ）、Distortion（ディストーション）等。
第9回	Cubase付属のギター、ベース用エフェクター「VSTampRack」「VSTBassRack」について学び、活用する。
第10回	ミックスダウンの概念と基礎を学ぶ。MixConsoleウィンドウを立ち上げ、各セクションの機能について学び、理解する。
第11回	「GroupChannel（グループチャンネル）」について学び、ボリューム情報その他の扱いの簡易化やエフェクトの効率化について学び、ミックスダウンに活かせるようにする。
第12回	ミックスダウンの実戦を行う。インサートエフェクト、FXトラックによるセンドエフェクト、グループチャンネル、「Q-Link」機能を利用し、手早くミックスができるようにする。
第13回	Cubase 10からの新機能であるMixConsoleの「スナップショット機能」を利用し、複数のミックスダウンを比較できるようになる。
第14回	1年を通じて学んだCubaseの操作法について、質疑応答を行う。また、さらなる効率化の為の実践的なTIPを講師から紹介する。
第15回	後期、前回までに制作した学生の作品を試聴し、ディスカッション、講師による論評を行う。一年間、お疲れ様でした。